

2002 世界麻雀選手権大会について

2002.12.13 金澤 正浩

「2002 世界麻雀選手権大会」が、10月23日～26日にかけて、東京ホテルグランドパレスで行われた。この大会が行われるまでの過程とその結果についてこれから述べていくことにする。

・麻雀世界選手権が開かれるまでの過程

この麻雀の世界大会実現には、日本からの涙ぐましい働きかけがあった。対戦中に「酒を飲まない」「タバコをすわない」「お金をかけない」をモットーにした日本健康麻雀協会は、1995年の東京大会を振り出しに北京など中国各地で80人～100人規模の健康麻雀大会を開催。それまで、「麻雀＝博打」と思い込んでいた中国人も「健康麻雀って、なかなかいいじゃないか」と理解を示した。

これを受けて中国の国家体育総局が99年1月、麻雀を255番目の体育種目として公認。同年9月には、それまでバラバラだったルールを統一し「国際公式ルール」も定めた。日本が提唱した”3ない麻雀”が大国を動かし、ついに世界中の愛好家が一堂に会する世界選手権、さらに北京五輪での公開競技としての開催にまで発展した。

・開催地変更の理由

この大会は中国が提案したこともあり、当初は中国の寧波市で行われるはずだった。しかし、寧波市の大規模イベントとスケジュールが重なり、予定されていた寧波市での開催が不可能となった。そこで、寧波市麻将運動協会の要請により、急遽、日本の東京に場所を移し、寧波市麻将運動協会とJMOC日本麻雀競技組織委員会の共催のもと行われることになった。

・大会の概要及び結果

この大会に参加した国は、日本、中国、台湾、アメリカ、ロシア、スウェーデン、オランダ、ブルガリアの八カ国。参加チームは25チームで、参加人数は100人。ゲーム数は8荘で、ルールは中国式ルールで行われた。麻雀人口3000万人の日本からは「日本麻雀連盟」「麻雀博物館」など4団体と、一般代表の計6チーム24人が出場した。参加した日本人はほとんどがプロであったが、彼らが世界大会出場を目指し、国際公式ルールを覚えたのは最近の話。つまり、他の一般競技者と同じラインからスタートしたにすぎない。にもかかわらず、周囲から「プロなのだから」と、必勝を期待する声上がる。彼らには相当なプレ

ツシャーがかかった。

結果は、個人が初音舞、団体が「麻雀棋士奨励会選抜Bチーム」と、両方とも日本が優勝というものであった。関係者によれば、日本と中国の二強の争いだったらしい。他の国では麻雀はまだマイナーゲームということだろうか。しかし、個人準優勝アメリカなど、今後の広がりも期待できる。

なお、個人優勝した初音には、株式会社アルバン（全自動卓販売業）から、専属契約のオファーがきているらしい。まだ正式な契約は交わしていないが、これが実現すれば前代未聞の快挙。麻雀プロという職業に、新たな可能性が開けることになる。

参考URL：「市川屋」 <http://1kaway.com/mjtop/sekai.html>

「2002年麻雀選手権大会」

<http://museum.takeshobo.co.jp/2002world.html>

「麻雀“W杯”が今度は熱い」

http://www.yomiuri.co.jp/hochi/jul/o20020730_165htm

参考文献：近代麻雀2003年1月1日号より